 ©2011 筑波大学生物学類

特集：入学

背伸び

佐藤　忍（筑波大学 生命環境科学研究科）

皆さん、ご入学おめでとうございます。こんな大変な時期ですが、自分達ができる事を精一杯やっていきましょう。皆さんが入学された生命環境学群は、生物と農学と地球科学が一つになった教育組織です。地震や津波による災害や原発からの放射性物質による汚染に対する対処や被災地の復興に関して、これらの学問分野は多大な貢献ができる位置に有ります。復興には長い時間がかかると予想されます。皆さんには将来に向けて生物学類でしっかり学んで、各々の立場から日本の復興に貢献していって欲しいと思います。

初々しい皆さんを見ていると、私自身が 30 年以上前に大学に入学した頃を思い出します。いろいろな地方から集ったクラスメートの個性をまぶしく思い、クラス担任がいる事に驚き、授業に部活にと入学したての頃の緊張した日々の感じがよみがえってきます。私はそんなにまじめな学生では有りませんでしたが、大学に入ったからには大学生らしく生きようと思っていたと思います。研究者になろうとか大学院に進もうとか明確な目標が有ったわけではないのですが、何人かのクラスメートとその頃目新しかった分子生物学の英語の本の輪読会を開いたり、科学博物館などで開催される研究講演会を聴きに行ったり、生命の起源や生命論の本を買ってきて読んだりと、いろいろな事をしていました。木村資生先生の中立説の話を聴いたのもその時だったと思います。また、大学の自治会活動をちょっとのぞきに行ったりもしました。その一方で、授業をさぼって友達と遊びに行ったり、酒を飲んで二日酔いしたりはしょっちゅうでした。でも大学生としての気概を持とうとしていたように思います。生物の専門書も買って分からないながらも読み、所々に自分の思った事を書き込んだり、途中で植物生理学を専門にしようと決めてからは英語の教科書を手に入れて読んだりしていました。今思うとかなり背伸びをしていたなと思います。でもそんな背伸びが受け身ではなく自分自身で考えて動くことの大切さを教えてくれたように思います。

今は時代も当時とは異なり、皆さんは膨大な情報と恵まれた環境に囲まれて大学生活を送って行く事と思います。恵まれた状況のなかで受け身の姿勢で日々を過ごして行っても無事 4 年間を終了する事ができるでしょう。でもその様に過ごした日々は単なる高校までの学校の延長に過ぎないのではないでしょうか。自分で考えて自分で行動する。少し背伸びをして生意気な事をやってみる。そんなささいな冒険心を持って大学生活を送ると、卒業する時には何かが違ってくると思うのです。皆さんにはぜひ大学生としての気概を持っていって欲しいと思います。皆さんの 4 年間が実り多い事をお祈りしています。

Contributed by Shinobu Satoh, Received April 19, 2011.